

第 485 回 N S T新潟総合テレビ番組審議会

1. 開催日時 2026年3月11日(水) 11:00
2. 開催場所 NST新潟総合テレビ本社
3. 委員出席
- 委員総数 8名
 - 出席委員数 7名 (レポート出席を含む)
 - 委員長 伊藤 満敏
 - 副委員長 本田 賢一
 - 委員 山田 富美子
 - 委員 廣田 徹
 - 委員 榎 大介 (レポート)
 - 委員 高杉 龍司 (レポート)
 - 委員 岡井 美奈
 - 欠席 藤沢 流

(敬称略)

○放送事業者側

酒井 昌彦 (代表取締役社長)

高島 裕介 (取締役)

中馬 淳一 (取締役)

佐藤 航 (番組説明・報道制作部)

武者 正人 (番組審議会事務局)

4. 議 題

(1) 番組審議

「Dreaming いま夢に向かって」2026年1月1日(木)

12:00～13:15 放送 (75分番組)

(2) その他

視聴者対応、訂正・取消放送の報告

配布資料

- ・議題・レポート取りまとめ
- ・BPO報告 (NO. 286)

5. 議事概要

(1) 番組審議

番組審議では番組制作者による番組概要・企画意図等の説明文と動画を送付し、委員より事前に提出されたレポートを取り纏め、審議会ではポイントとなる意見をいただく形式をとった。

・番組のナビゲーターは糸魚川市出身の横澤夏子さんと魚沼市出身のおばたのお兄さん二人によって、終始番組への親しみやすさと安心感があるキャスティングで正月らしいあたたかな内容の番組だった。

・新たな年に元気をもらえる番組に仕上がっていた。

特に、フィギュアスケートの中井亜美選手については日本スケート連盟が中井選手のオリンピック出場を発表したのは昨年12月21日。県民の関心の中井選手に集まる中、発表の約10日後にこの番組が放映されたのは非常にタイムリーだった。

・中井選手のコーナーでは、幼少時代からの映像やインタビューをふんだんに使い、中庭健介コーチらの証言も交えながら、中井選手の選手像や人柄を見事に描き出していた。

・陸上 100 メートルの新星・関口裕太選手についてはインターハイ優勝のころから丁寧に取材して素材を蓄積し、それがこの番組で花開いた印象を受けた。過去の映像などの蓄積をもとに人物像を描き出されていた。

・ IS:SUE の NANO さんの紹介について、幼少期のお話はあったものの、オーディションで勝ち抜いた歌やダンスの基礎はどこで身に付けたのか、新潟で過ごした頃から練習生になるまでの足跡や頑張りなども紹介すれば見ている側として応援する気持ちをもっと大きくなったと思う。

・ 頑張っている新潟県出身者を見ることは、世代を問わず県民の励みになるので、これからも長く続けて欲しい番組だと思う。

・ この番組は興味があるジャンルは見やすいが、興味がないジャンルをどのように演出するか非常に難しいと思っていたが、例年に比べ時間配分も良かったと思う。

・ 次回は、新潟の産業で活躍する職人や経営者など違ったジャンルで活躍する夢追い人を一人くらい取り上げて良いのかなと感じた。

・ 番組では 4 組それぞれが活躍している場面だけでなく、努力の過程やプレッシャー、悩みながらも前に進む姿が丁寧に描かれていた。

・ 過度な演出に頼らない落ち着いた構成は、登場人物一人ひとりの言葉や表情を際立たせ、番組全体から安定感が伝わった。

・ 取り上げた 4 組をすべて「若者たち」という表現にしたことは少し違和感を覚えた。若手なのか若者なのか、定義がややあいまいに感じられる点が引っかかった。

- ・また、4人を取り上げていることは分かったが、4組として扱った方がインタビューのバランスがより良くなったのではないかと思う。

- ・画面上部に常に表示されていた「Dreaming」という文字や紹介者の名前については、背景に馴染みすぎないように彩度を調整しても良いのではないかと感じた。

- ・公判で紹介する関口さんと中井さんはスポーツ選手という共通点もあるため、前半2組の紹介が終わった段階で「後半はスポーツで活躍するお二人に注目します」といった形で雰囲気切り替える演出があっても良かったのではないかと感じた。

(2) その他

視聴者対応

資料に基づき、2026年2月分の視聴者対応について、事務局より報告を行った。

訂正・取消放送の報告

前回開催日～今回の開催前日までに総務省に届け出た訂正放送・取消放送はなかった。